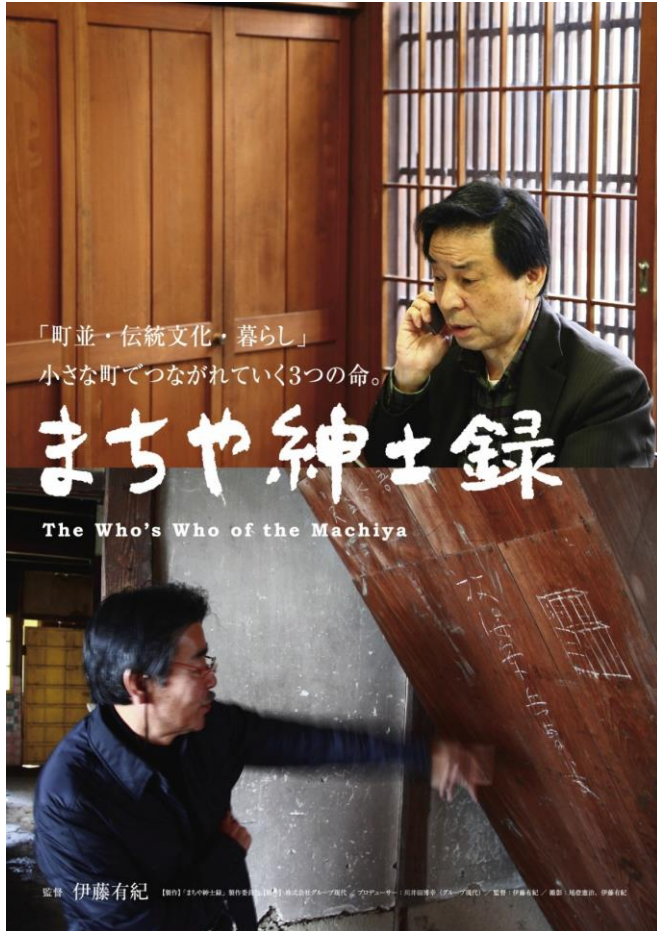


ドキュメンタリー映画「まちや紳士録」概要

(2012年4月～現在)



—「まちや紳士録」のチラシの表紙—

●日本の伝統文化である歴史的町並みの保存継承活動

八女市の市街地の一角を占め、江戸時代以降に商家町として繁栄した「町家群」の残る八女福島では、H3年の大型台風によって被害を受けた町家が、取壊されるなどの状況を見て危機感を感じた市民有志が、まちづくり団体を発足させ、八女福島の町並みを活かすまちづくり活動を様々な市民が主体的に実践する形で展開され、行政もその活動を支援してきた。



—八女福島の町並み(居蔵造の町家が並ぶ)—

一方で、近年、少子高齢化が日々進んでおり伝統家屋の空き家が増加する中で、八女福島の町並みを保存・継承し、地域の

コミュニティの維持を図るため、空き家の所有者を含め修理等相談活動、その修理を担う技術・技能者の育成活動、伝統的な祭事の保存・継承活動など多種多様の取組みを有機的に結びつけ、持続的に展開していくことが必要になっている。



—毎年9月に3日間公演公開される・八女福島の燈籠人形—



—町家の保存修理:柱根継ぎ—

これらの課題を真正面から受止め、先駆的な活動を進めるため、市民の様々なまちづくりの主体が歴史・文化のまちづくりの大切さを共有し、協働を迫りながら日々努力を重ねている。

●ドキュメンタリー映画製作の具体的活動と意義

この映画製作のきっかけは、2011年9月に八女福島の燈籠人形(からくり人形)公演の見学した映画会社のプロデューサーが、見学後に地元の人と町家で地酒を酌み交わし、八女福島の町並みの保存継承活動に触れたことに始まり、映画監督が八女福島の町家暮らしを始めたことで、構想が大きく膨らんだ。

私たちは、先人の知恵と努力の中で育まれてきた日本の伝統文化として、世界に誇るべき歴史的町並みを後世に伝え残していくため、少子高齢化の深刻化による町家の担い手不足、社会構造の激変に伴う建築文化の変化の中で大工や左官などの職人の減少による伝統的建築技術の担い手不足などが厳しい現実に直面しており、その課題に重点的に取り組むため、町並みの保存・継承活動を展開している様々なまちづくり団体及び住民、移住者及び移住希望者、そして建築士、大工等の職人に取材し、修理現場を含め撮影を行い、ドキュメンタリー映画を製作した。

高度成長時代にスクラップアンドビルドという価値観のもと、日

本原風景である多くの町並みが破壊された。経済の論理、開発の波から取り残された町並みは、バブルがはじけて低成長時代が続く今、輝きを取り戻そうとしている。それはなぜか、そこには日本人の伝統文化を大切にしている心があるからです。「古民家を修理して住む、古材を利用する、家を代々つないでいく」、「暮らしをつないでいく、命をつないでいく、伝統をつないでいく」日本の「木の文化」は、暮らし、命、心とともに家(町家)を繋いできました。この映画は、繁栄のかたで忘れかけている日本の心の本質を問いかけている。

2013年8月に完成したこの映画は、福岡、東京、京都、大阪、名古屋、神戸、佐賀、北九州、鹿児島、金沢、新潟等の映画館で公開され、全国で日本固有の町家や民家建築等を修理し未来に繋げていく活動を展開している地域を中心に 40 箇所を越える地域で上映会が取組まれ、大きな反響を呼んだ。



—地元福島小学校6年生の土壁塗り体験授業—



—町家の修理事業:修理前(上):修理後(下)—



—町家の手入れ:べんがら柿渋塗り—

●製作の期間等

◎映画の製作: 2012年6月22日～2013年8月10日

◎映画は、1時間28分(88分)の長編です。

◎映画の全国上映: 2013年9月～現在まで

●製作の体制等

◎八女文化遺産保存・活用ネットワーク/「まちや紳士録」製作委員会: 代表(牛島幹)、副代表(高橋康太郎、中島孝行)、事務局長(北島力)、委員(伊藤有紀、伊藤寛美、糸山信、大島真一郎、加藤浩司、川井田博幸、高口愛、許斐健一、柴尾悠、島畑由紀子、白水高広、高橋 宏、中嶋 悟、中島隆弘)

◎参画団体: NPO法人八女町家再生応援団、NPO法人八女町並みデザイン研究会、NPO法人八女空き家再生スイッチ、八女ふるさと塾、NPO法人まちづくりネット八女

◎問合せ先: TEL 090-8413-6128、FAX 0943-24-8521

〒834-0031 福岡県八女市本町264 八女町家再生応援団内

E-mail bynrt982@ybb.ne.jp

HP <http://www.yame-machiya.info>

—DVD購入申込受付中

(@3500、Eメール、FAXで) —

◎賛同人: 安部龍太郎(直木賞作家)、梶山秀一郎(建築家)、黒木 瞳(女優)、椎窓 猛(詩人)、調 紀(明永寺住職)、西村幸夫(東京大学副学長)、野村興兒(萩市長)、前野まさる(東京藝術大学名誉教授)、松久保秀胤(薬師寺長老)、松田久彦(八女ふるさと塾名誉塾長)、山本源太(陶工)

◎後援: 八女市、八女市教育委員会、八女商工会議所、八女市観光協会、八女ロータリークラブ、八女ライオンズクラブ、八女福島町並み保存会、全国伝統的建造物群保存地区協議会、NPO法人全国町並み保存連盟、作事組全国協議会、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、公益財団法人日本ナショナルトラスト、朝日新聞西部本社、毎日新聞社、西日本新聞社

●製作スタッフ

◎プロデューサー: 川井田博幸(株式会社・グループ現代)

◎監督: 伊藤有紀

◎撮影: 尾登憲治、伊藤有紀、◎音楽: 原みどり

【監督のプロフィール】2005年、東京都北ケーブルTVの連続ドラマ「商店街探偵キタ」がディレクター初仕事。スカパーの旅番組「イクメンノダ

ース」では2年3ヶ月かけ日本一周を果たす。企業や行政のVPなど多数制作。福岡県柳川市が舞台のセルDVD用短編映画「町を歩けば」がショートショートフィルムフェスティバル&アジア2011 ミネート。その他の作品に、福岡の県南・筑後地方で行われた画期的な公共事業・九州ちくご元気計画のドキュメンタリー映画「筑後ちくごChikugo」三部作など。

— 映画製作の地元の熱い思い —

北島 力(「まちや紳士録」製作委員会事務局長)

私は、八女市役所に就職し、1993年(H5)、42歳の時に歴史的市街地に位置する八女福島の町並みの保存・整備の担当者となり、2012年の定年退職までその仕事に携わった。町並み保存は個人の財産に関わる問題で様々な課題と向き合う複雑な仕事であり、一貫して住民目線での仕事を信条とし、行政マンとして、一人の人間として全ての能力を注ぎ込んで取り組んだ。ふり返ると、八女福島の歴史とその貴重な価値へのきびきびが大きかった。町家には先人の見事な匠と脈々と生まれた人々の暮らしが詰まっており、それを経済優先のスクラップ&ビルドという価値観がはびこる中、簡単に壊して良いのか、歴史や文化を軽んじて良いのかと、もがき苦しむ中で今までの私の考えは一変していった。

その歩みの中で、様々なまちづくり団体が生まれ、その活動は悩みを抱えつつも着実に地元へ根を下ろしている。退職間際の私に地元の若者たちからドキュメンタリー映画製作の話が舞い込んできたとき、ためらいもなく汗を掻こうと決意した。なぜか、町並み保存の取り組みの中で、町家の解体の危機をはじめ幾多の修羅場をくぐり抜けた私は、一喜一憂に今の町並みができたわけではなく、たくさんの人々の汗と熱い思い、努力の積み重ねの上に今があることを、誰よりも痛感していた。これまでの活動を記録検証し、次世代に継承する準備のためには、またとないチャンスと体が自然に動いた。

全国の町並み保存地区の多くは、少子高齢化の深刻化による空き家の増加及びコミュニティの担い手不足、社会構造の激変に伴う建築文化の変化の中で大工や左官などの職人の減少による伝統構法の技術者の確保について、厳しい現実と直面している。そこで特筆すべきは、八女福島ではこの大きな二つの課題を真正面から捕らえ、NPO法人八女町家再生応援団とNPO法人八女町並みデザイン研究会の協働プロジェクトが、先駆的に取り組みを持続させていることである。これが高く評価され(公社)日本ユネスコ協会連盟が進める「プロジェクト未来遺産」の第一号として、2009年に登録されている。

この映画の製作に支援いただいた方々に感謝し、地域上映活動をステップとして全国の仲間と繋がり、複雑で困難な課題が立ちほだかるが、常に人と人、市民と行政が響きあう協働のまちづくりを意識しながら、暮らし、命、心とともに家(町家)を繋いで

きた日本の「木の文化」を次世代に引継ぐ活動が、これからも私のライフワークである。

— 上映活動の実績 —

○地域上映

—2013年—

7/21 福井県板井市三国町、8/10 八女市(完成試写会)、9/15 第1回八女市、9/27 北九州市八幡西区木屋瀬、10/19 久留米市岩田屋本店、10/26 と 10/29 大川市小保・榎津、10/27 京都府、11/2 京都府宮津市、11/5 京都府与謝野町加悦地区、11/9 平戸市大島村神浦地区、11/30 奈良県宇陀市、12/8 愛媛県内子町(計 12ヶ所)

—2014年—

3/5 新潟県村上市、3/8 山口県萩市、3/16 兵庫県姫路市、3/27 うきは市、8/2 福岡市、8/16 茨城県桜川市、8/26 東京都文京区、9/19 兵庫県篠山市、9/21 第2回八女市、10/7 鹿島市、10/23 東京都代官山、11/7 鹿島市、11/24 岡山県新見市、11/25 岡山県矢掛町、12/6 倉敷市、12/13 直方市、12/13 栃木市、12/20 愛媛県伊予市(計 18ヶ所)

—2015年—

1/24 宇佐市、1/31 唐津市、2/14 鳥栖市、3/7 愛媛県西予市、3/15 徳島県三好市、3/22 朝倉市、5/4 東京都江戸川区、11/3 兵庫県たつの市、12/13 三重県桑名市(計 9ヶ所)

—2016年— 2/27 三重県伊賀市、12/17 愛媛県松山市

—2017年— 2/5 福岡市中央区大名

—2018年— 9/23 福岡市中央区今泉 (トータル42ヶ所)

○劇場公開

—2013年—

12/7~12/13(1週間)KBCシネマ(福岡市天神)

—2014年—

3/1~3/14(2週間)第七藝術劇場(大阪市淀川区)、3/1~3/21(3週間)シアター・イメージフォーラム(東京都渋谷)、5/10~5/16(1週間)名古屋シネマテーク(名古屋市千種区)、6/14~20(1週間)佐賀シアターシエマ(佐賀市)、7/5~11(1週間)京都市みなみ会館(京都市)、7/5~11(1週間)元町映画館(神戸市)、8/20 小倉昭和館②号館(北九州市):10/13 高田世界館(上越市)、10/17~24(8日間)鹿児島ガーデンシネマ(鹿児島市)、11/15~28(1週間)金沢シネモンド(金沢市)

—2015年—

6/20、6/22~26(6日間)新潟・市民映画館 シネ・ウインド(新潟市) (計・トータル12ヶ所)

※各劇場公開上映では、たくさんの方々の八女出身者の方が見られ、懐かしかったとか、福島の町並みをよく残してくれているとかの感想が寄せられています。